

少年(小学生) 一、二、三級昇級審査要項 (案)

級位	三級	二級	一級
受審最小学年	小学校3年	小学校4年	小学校5年
最小修行年数	四級取得後 3か月以上経過	三級取得後 3か月以上経過	二級取得後 3か月以上経過
服装	一人で柔道衣を正しく着ることができる。 ※服装を整えさせ確認する <ul style="list-style-type: none"> ・ 前襟が正しくなっているか。 ・ 下ばきの紐が結べているか。 ・ 帯を正しく結べるか。(後ろが一本に重なるように結べる) 		
礼法	座礼が行えるか。 ※直立の状態から「正座」「礼」「起立」のコールもと礼法を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 座る際の足運びの順序、手の位置を確認する。 ・ 座った状態(正座)での手の位置、足の親指の位置を確認する。 ・ 「礼」のコールのもと、手の運び、お辞儀の角度、お辞儀時の手の位置を確認する。 ・ 立つ際の足運びの順序、最後に気をつけの状態になっていることを確認する。 試合時の礼法が行えるか。 ※試合形式を模して、試合入場、開始、終了時の礼法を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 試合場への入場時の礼法がスムーズに行えるか 試合場に上がる時の場外で、相手と目を合わせて一礼をする。 ・ 試合開始線での礼法がスムーズに行えるか。 試合線に立ったところで、気をつけの状態、相手と目を合わせて一礼をする。 一礼後、左足、右足と進み、自然本体で試合開始のコールを待つ。 ・ 試合終了のコール後の礼法がスムーズに行えるか。 右足、左足と下がり、試合開始線の後ろで気をつけの状態になる。 そのまま、試合場、場外まで下がり、相手と目を合わせて一礼をする。 		
姿勢	自然体の体位が行えるか。 ※体位の号令のもと実施させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然本体ができるか ・ 右自然体ができるか ・ 左自然体ができるか 体さばきが行える。 ※体捌きの号令のもとに実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回り体捌き ※正しく足捌きが行えていることを確認する。 ・ 後回り体捌き ※正しく足捌きが行えていることを確認する。 		
受身	三級 四級までの審査項目の復習と確認 座位・中座・立位による受身が正しく出来ることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 後受身 ・ 横受身 ・ 前受身 ・ 前回受身(立つことは求めない) ※立技の受けとして正しく受身が行えるかを確認することも含む	二級 移動による受身を行い確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 後ろ歩きをしての後受身 ・ 横報告に歩行しての横受身(左右) ・ 歩行しての前回受身(立つことは求めない) ・ 立位状態から振り向いて前受身 	一級 移動による受身を行い確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 後ろ歩きをしての後受身 ・ 横報告に歩行しての横受身(左右) ・ 歩行しての前回受身(立つことは求めない) ・ 立位状態から振り向いて前受身
立技	原則、以下の技について、各級位で定める事項が行えることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 三級、二級については、小内刈、小外刈、体落、内股、払腰 等 ・ 一級については、上記に加え出足払、膝車、大腰、釣込腰、送足払、支釣込足、背負投、大内刈、大外刈 等 		
	三級 上記に示す技の内、審査員が2つの技をコールし単体で実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 打込 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確に技を施せることを確認。 ・ 作り、崩し、掛けの実施。 ② 投込 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確に技を施せることを確認。 ・ 受けを正しく投げることを確認。 ・ 取りは、投げた際に受けの引手をきちんと引いているか確認。 ・ 受けは正しく受身を取っているかを確認。 	二級 上記に示す技の内、審査員が2つの技をコールし単体で実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 打込 <ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡技による打込が行えることを確認する。 ② 投込 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確に技を施せることを確認。 ・ 受けを正しく投げることを確認。 ・ 取りは、投げた際に受けの引手をきちんと引いているか確認。 ・ 受けは正しく受身を取っているかを確認。 	一級 審査員が体格差を考慮した連絡技を2つコールし実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 打込 <ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡技による打込が行えることを確認する。 ② 投込 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確に技を施せることを確認。 ・ 受けを正しく投げることを確認。 ・ 取りは、投げた際に受けの引手をきちんと引いているか確認。 ・ 受けは正しく受身を取っているかを確認。
固技	審査員が以下の固技をコールすることで、固技を施すことができることを確認する。		
	三級 審査員が次の固技の内、2つの技を述べて、その固技が正しく行えることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 袈裟固 ・ 横四方固 ・ 上四方固 ・ 縦四方固 	二級 審査員が次の固技の内、2つの技を述べて、その固技が正しく行えることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 後袈裟固 ・ 崩上四方固 ・ 肩固 	一級 審査員が2つの連続技とする固技をコールして正しく行えることを確認する。この連続技を2種類実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 袈裟固 ・ 横四方固 ・ 上四方固 ・ 縦四方固 ・ 後袈裟固 ・ 崩横四方固 ・ 肩固

チェックポイント
①

チェックポイント
②

※チェックポイントで審査項目の内容に達していないと審査員が判断した場合は、事故やケガ等を考え、以降の審査項目を実施せず、次回再審査とすることを許容する。
 ※全項目も通じ、審査項目の内容に達していないと審査員が判断した場合は、次回再審査とする。

＜参考＞

少年昇級審査会における受身習得の前提

少年昇級審査会では、原則、七級から一級へと段階的に昇級して行く。
 そのなかで、事故やケガ等の発生を無くすためにも受身の習得は重要であり、各級位でしっかりと習得する必要がある。
 昇級審査会においても、受身の習得内容を厳しく審査することとし、各級位での受身の審査レベルを次の通り定義し、
原則、三級、二級、一級審査会では、新たに当該級の受身要件について審査を行う。

級位	七級	六級	五級	四級	三級	二級	一級
受身スキル	一人の状態、前受身、前回受身、横受身、後受身を座位、中座、立座で行える。						
	一人の状態、前受身、前回受身、横受身、後受身を移動によって行える。						
	二人組で、前受身、前回受身、横受身、後受身を移動による投げ込みで行える						

三級、二級、一級の受身の範囲であり、一人での座位、中座、立座や移動による受身は、下位の級位で審査済である。